

問い合わせ先

第二管区海上保安本部

海洋情報部 専門官 木村信介

電話 022-363-0111 (内線2511)



平成24年1月20日

第二管区海上保安本部

震災後の測量により八戸港の海図を改訂

海上保安庁では、東日本大震災で被災した港湾について、水深の変化や海底の障害物の状況を把握し、航海の安全を確保するために、水深測量を行い海図を改訂しています。

八戸港（青森県）では、昨年7月から8月にかけて測量船「天洋」により水深測量を実施しました。その成果を反映させて1月27日に海図を改訂します。

八戸港は英語版海図も刊行しており、同時に改訂します。

なお、被災した港湾の海図改訂は、仙台塩釜港（塩釜区、仙台区）、釜石港、大船渡港、石巻港に次いで6図目で、他の被災した港湾の海図についても同様に順次改訂していきます。

1. 東日本大震災により、被災した港湾では岸壁の崩壊、水中障害物の存在、水深の大きな変化など、海図の記載内容と現状に相違が生じています。海上保安庁では、航海の安全を確保するため、昨年7月から8月にかけて八戸港の航路や主要な岸壁付近において、測量船「天洋」により震災後に精密な水深測量を行い、1月27日にその測量結果を海図に反映させる改訂を行います。

今回の水深測量で未測量の区域は、優先順位をつけて測量を実施し、順次海図に反映していきます。

被災港湾の海図を発行する際には、震災前の測量成果と見分けられるようにするため、新たに精度索引図を掲載しています。

八戸港は、日本版の通常版の海図と、外国人船員の利便性向上のために英語版の海図を発行しており、両方の海図を同時に改訂します。

なお、被災した港湾の海図改訂状況は次のとおりです。

・改訂済みの海図

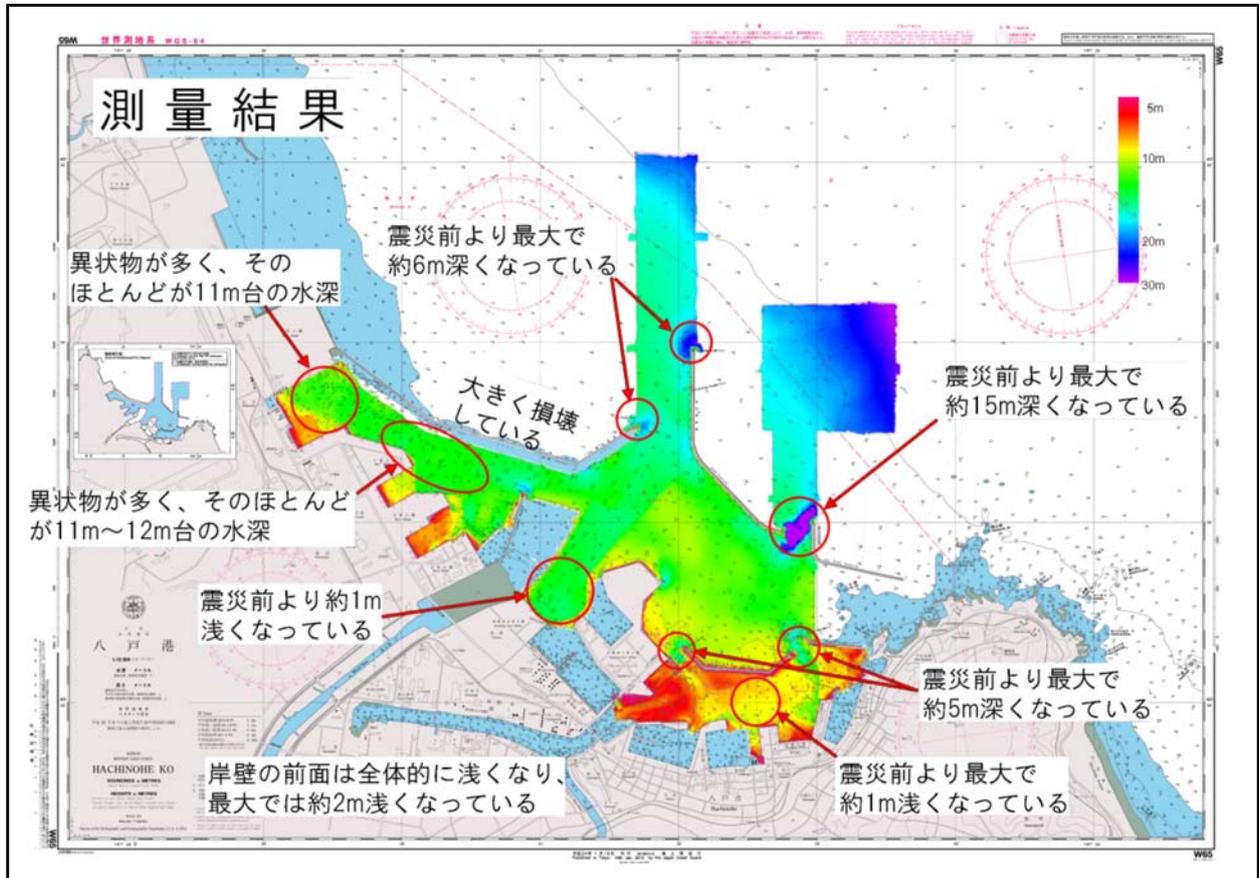
仙台塩釜港（塩釜区、仙台区）、釜石港、大船渡港、石巻港

・今後改訂を計画している海図

久慈港、宮古港、気仙沼港、相馬港、小名浜港

2. 八戸港の水深測量では、震災前と比べて以下の変化が確認されました。

- (1) 防波堤付近の航路等が狭まった箇所においては、震災前に比べて水深が最大で約15m深くなっていることが分かりました。
- (2) 岸壁の前面は最大で約2m と全体的に浅くなっています。また、港内の一部においては水深が約1m浅くなっている区域や異状物が多数確認されました。



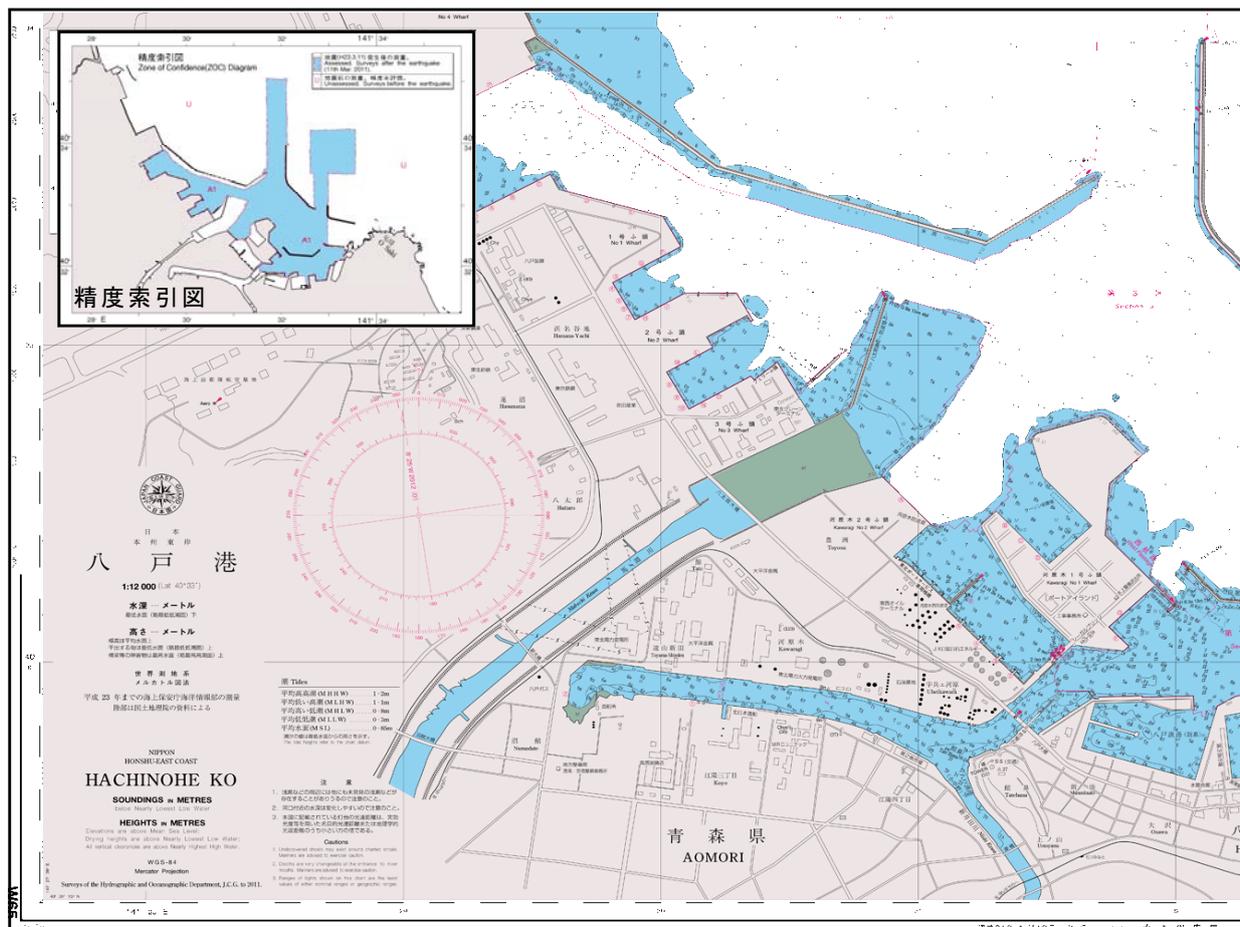
3. 海図の概要

海図番号	図名	縮尺	図積	価格(税込み)	発行日
W65*1	八戸港	1/12,000	全紙*2	3,360円	平成24年1月27日
JP65	HACHINOHE KO	1/12,000	全紙	3,360円	平成24年1月27日

*1 W65は日本語・英語を併記、JP65は英語のみで表記された海図

*2 図積 全紙とは、用紙の寸法が約109cm×77cmの大きさのもの

八戸港の海図（一部）と精度索引図



4. 海図は最寄りの水路図誌販売所及び取次店で購入できます。この販売所等については、以下のホームページ「海図の購入方法（水路図誌販売所）」や当庁刊行の水路図誌目録をご覧ください。海の相談室までお問い合わせください。

ホームページ <http://www1.kaiho.mlit.go.jp/KOKAI/ZUSHI3/default.htm>

海の相談室 電話022-363-0111（内線2511）